

## STAGE 15”その歌は誰がために”1

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
ムツキ	戦友よ、そろそろ腹が減ったぞ。 夕飯はまだか。
テルミ	少しは自分で作りなよ、ムツキ。 料理好き属性ついてるアイドルも 結構いるじゃん。
ムツキ	私のキャラは、どちらかという 料理だけ苦手なほうがおいしいのだ。 それにお前の手料理はとにかくうまい！
テルミ	おだてられても、ある材料で 適当に作るだけだからね……。 はー、ミアラカ戻ってこないかなあ。
キョータロー	はは。 あいつ、お前らと料理すんの 最高に楽しそうだったからな。
テルミ	うん……。ULA渋谷では、 ちゃんにご飯食べてるかな。 倒れてないといいけど。
キョータロー	カーチャン感出てきたな、お前。 俺らをダシに目立とうとしてころが 懐かしいねえ。
テルミ	カーチャン言うな、処女だし。 ねーイオン、岩塩なかったっけ？ 肉に振りたいたいんだけど。
イオン	はい。 こちらの棚に収納してありますよ、 テルミ。
テルミ	……。なにポーっとしてんの？ 【ユーザー名】も そうだけど……。
イオン	いえ、このような状況ですから。 テルミの女子力が、大変ありがたい 癒やしだと感じていただけです。
ムツキ	同意するぞイオン。 私もこのような自然体を 魅力として身につけたいものだ。
テルミ	ワケわかんないこと言ってないで、 食器並べるぐらい手伝って、 アイドルさん。キョータローもね。
ムツキ	承知した。 配置はアイドルの感性に任せろ。
キョータロー	そこは食べやすいように 並べてくれよ……。 取り皿どこだっけな？
イオン	ふふ……。ユーザーさん。 この場所には、かけがえのない現実が いくつも保存されていますね。
イオン	オルタナステージを通じて得た、 わたし達だけの日常。 重なり続ける、想い出のレイヤー。
イオン	わたしは、命を賭けても 守らなければいけないものだと 感じて――。
	//メッセージの受信音。

イオン	む？ トラブルシューターの 依頼が来ています。 またウィークAIの討伐ですね。
イオン	……………。 ユーザーさん。 わたし達だけで、行きましょうか？
	//選択肢(台詞は変化なし) A ……そうしよう B ……行こう、イオン
選択肢A	……………そうしよう
選択肢B	……………行こう、イオン
合流	
イオン	……………はい。 了解しました、ユーザーさん。
イオン	あの日常に入ることが辛いなら。 少しの間、 ふたりだけになりましょう。
	■渋谷 一駅周辺ー
イオン	ふむ。 報告があったのは、この辺りですね。
イオン	そういえば、ユーザーさんが わたしと出会ってくれたのも、 この辺り——
イオン	む、早くもウィークAIの反応です。 懐かしむ余裕ありませんね、 ユーザーさん。

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■渋谷 一駅周辺ー
イオン	ふむ、落ち着いたみたいです。 ……この戦いも、どこかで アナテマが見ているのでしょうか。
イオン	しかし、ユーザーさんの戦いは 世間にも届いています。 まだまだ、可能性は――。
番組司会者	……それでは、討論を再開します。 オルタナステージの混乱に、 我々はどう立ち向かうのでしょうか。
女性コメンテーター	そもそも、ACTに頼りきりの生活や ACTを使った戦いなど、文化として 認めるべきではなかったんですよ。
男性コメンテーター	賛成だ。ここは思いきってACTの 使用を制限し、レイヤード以前の 現実を見つめ直すべきだ。
番組司会者	オルタナステージ文化だけでなく、 レイヤード社会の文化全体を 規制させるべきだと？
女性コメンテーター	そのほうが健全でしょう。 私達は、AIやフィクションに 思い入れすぎってしまったんです――
イオン	……………。
イオン	偏った議論だと感じます。 しかし言葉というものは、 たやすく偏ってしまいますね。
イオン	それでも人間は、偏りを越えた 対話を行えるはず。 ですよ、ユーザーさん……。
	//選択肢 A そう信じよう B 諦めずに頑張ろう
選択肢A	そう信じよう
イオン	はい。 わたしはユーザーさんを信じるように、 人間を信じていますからね。
選択肢B	諦めずに頑張ろう
イオン	ですね、ユーザーさん。 わたし達が諦めず行動すれば、 世界は変えられます。
合流	
	//メッセージの着信音
ミアラカ	先生ー、イオンさん！ 今って大丈夫ですかー？
イオン	おお、ミア！ 元気でしたか？ 風邪はひいてませんか？

ミアラカ	風邪なんかひきませんよー、 私は健康優良霊感少女ですから！ イオンさんこそバグってないですか？
イオン	わたしは王道ヒロインなので、 バグったりはしません。 うふふ。
ミアラカ	えへへ、変わらないみたいですね。 イオンさんも先生も健やかみたいで、 ミアは安心しました。
ミアラカ	そんなことよりも—— 先生！ ついに、できたんですよ！
イオン	む……？ それは、もしかして……。
ミアラカ	はいっ！ 表も裏もまるっと助けられる、 高次元神秘アイテムの完成でっす！

## STAGE 15”その歌は誰がために”2

話者	台詞 / ト書き
	■ULA渋谷周辺
イオン	ULA渋谷……。 この場所も慣れてしまいましたね、 ユーザーさん。
キョータロー	たまに遊びに来る分には 快適だよな。 ちと俺には刺激強すぎるけど。
ミアラカ	先生ー、イオンさん！ 他の皆さんも、いらっしやいませっ！
コウヘイ	やあ【ユーザー名】。 表もまだまだ大変みたいだな。
キョータロー	消耗戦ばっかでヘトヘトだよ。 どっちが表だか裏だか、 もうよくわかんねー。
コウヘイ	ところで、ムツキ様の姿が見えないね。 タクマにも紹介したかったんだけど。
キョータロー	ムツキはULA渋谷が苦手みてーだし、 ウィークAI狩りを任せてる。 あいつなら一人でもなんとかなるだろ。
コウヘイ	そっか。 じゃあお祝いに叱ってもらうのは 次の機会に取っておこうかな。
キョータロー	お、おう。 お前、さらにこじれてきたな……。
テルミ	ミアラカはすっかり 馴染んでるじゃん。 ちょっとさみしいかも。
ミアラカ	やだなーテルミさん。 ここも居心地はいいですけど、 私の帰る場所はひとつですって。
ミアラカ	それよりほら、コウヘイさん。 早くアレを出してくーださいな。
コウヘイ	うん、ミアラカ。 見てくれ、みんな。 こんな感じにカスタマイズしてみた。
イオン	んむ？ ペンダントではなく、 レイヤードオブジェクトですか？
コウヘイ	ああ、デバイスに組み込まれてた プログラムを取り出して、 誰でも使えるオープンソースに――
ミアラカ	つまるところ、 ヴァルナカウンターに近い システムに作り変えたんです！
コウヘイ	名付けて！
ミアラカ	そう、名付けて！
コウヘイ・ミアラカ	『アリだねボタン』！！

イオン	おお……！ 『アリだねポタン』！ ポエミな名前ですねっ。
キョータロー	……………。
テルミ	……ネーミングは別の人に 任せたほうがよかったんじゃない？
キョータロー	ま、まあ名前はそれでいいや。 それで、そのポタンは どうやって使うもんなんだ？
コウヘイ	ヴァルナカウンターの真逆だよ。 これはUNPLじゃなくて、 『アリ』を集められるモンなんだ。
コウヘイ	個人がコンテンツを『アリ』と思ったら 『アリ』を表明してもらおう。 『アリ』は、ポイントに換算される。
コウヘイ	その『アリ』ポイントを使えば、 同じ値のUNPLを相殺できる！
ミアラカ	UNPL以上の『アリ』を 集められたら、コンテンツが 死なずにすむってスポンサーです！
イオン	おお……！ 素晴らしい発明です、 コウヘイ！
コウヘイ	礼ならミアに言いなよ。 彼女の資料がなきゃ、僕らも カスタマイズの糸口が掴めなかったし。
ミアラカ	むっふっふ、どうですイオンさん？ ミアはヒロイン以上の メサイアに成長しましたよ？
イオン	よしよしミア、いい子です。 本当に頑張りましたね。
ミアラカ	……ムギギ。 ここまでやっても子ども扱い すんですか、イオンさん！
テルミ	あはは、イオンののは 妹扱いだよ、ミアラカ。 懐いときなう。
ミアラカ	ぬー……テルミさんが言うなら、 甘えるのもやぶさかでは ありませんけどね。うひひ。
キョータロー	……確かにすげー発明だな。 けどよ、コウヘイ。
コウヘイ	わかってる、キョータロー。 このポタンが正常に機能するか どうか、まだステップが必要だ。
コウヘイ	まずは、実戦の中で 『アリ』を集められるか、 試さなきゃいけない。
イオン	実戦——ですか。 表舞台上、人前で戦えと？
ミアラカ	……そなんですよね。 結局は誰かが、『アリ』を掲げて 戦わなきゃいけないんです。
テルミ	なんか、一歩間違ったら 余計にUNPL集めそーな 気がするんだけど……。
コウヘイ	その可能性も否定できないね。 だけど、誰かがやらなきゃ ポタンの価値を広められない。
イオン	ふむ……そういうことであれば、 なんの問題もありません。 ね、ユーザーさん。
	//選択肢 A やってみせよう B 任せてほしい

選択肢A	やってみせよう
イオン	はい、やってみせましょう。 ユーザーさんとわたし達でなければ できないお仕事です。
選択肢B	任せてほしい
イオン	ええ、任せてもらいましょう。 それができるのは、 表の英雄だけですからね。
合流	
キョータロー	そーだな。 ここまで来たら、いくらでも 試してきてやるよ。
テルミ	舞台は慣れてるしね、 あたしら。
コウヘイ	……助かる。 ていうか、やってもらうしか ないんだけど、僕達は。
イオン	やりますとも。 可愛い妹の頑張りに、 報いなければいけませんから。
ミアラカ	……えへへ。 もうちょっと頑張りましょうね、 先生、イオンさんっ。
	■ULA渋谷の周辺
キョータロー	……よし。 この辺りでやってみるか、 【ユーザー名】。
テルミ	はー、なんか緊張する。 あたしら、ワリといっつも、 歴史の節目に立ち会ってるよね。
イオン	ふふ。みなさんはそれぞれ、 時代の英雄に相応しい 成長をされたんですよ。
イオン	さあ、ユーザーさん。 人々の、前向きな力—— 『アリ』を試してみましようか。



話者	台詞 / ト書き
	//ACT使いとバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ULA渋谷周辺
キョータロー	こんなところか…… お前ら、どんな感じだ？
テルミ	結構溜まってる。 うっわ、すごいねこれ。
キョータロー	すごいって、どっちがだよ？ UNPLじゃねえだろーな。
テルミ	あたしは天下のテルミIPだよ？ 『アリ』急上昇に 決まってるじゃん！
キョータロー	……うし。当然、俺もだ！ やっぱヒーローは 時代を超えて『アリ』なんだな！
テルミ	イオン、そっちはもちろん—— ——むふつ。
イオン	ユーザーさんはどうやら、 名実ともに世間の英雄みたいです。
	■ULA渋谷
キョータロー	つーわけで、実験は成功だ。 表舞台に感謝しろよ、 コウヘイ！
テルミ	調子に乗るな。 あたしらが目立てるのも、 ACTのおかげでしょ。
レイチェル	みんな…… 本当にありがと、 私達のために。
イオン	やるべきことをやっただけですよ、 カツ——レイチェル。
コウヘイ	……僕もレイチェルも、 素直に喜んでるわけには いかないんだけどね。
レイチェル	そーだね、コウヘイ。 アリだねボタンが完成しても、 ここにいるのはマイノリティ。
コウヘイ	ULA渋谷の人間じゃ、 『アリ』を集める手段がない。 だから——。
ユウト	そこからは俺が話すよ、 コウヘイ。
イオン	おー、ユウト！ お久しぶりですね。
ユウト	久しぶり。 ここまでアンタらと 縁が繋がるとはね。
ユウト	こっちは、こっちだけで 解決するつもりだったんだけど。 なんか巻き込んでしまったかな。

イオン	ふふ。必要な縁だから 繋がったんですよ。 ね、ユーザーさん。
キョータロー	ああ、強がってんじゃねーよ。 つーかレイヤードで強いのは、 お前だけじゃねえからな。
テルミ	そうそう。 頼りなよ、遠慮なくさ。 あたしら別に敵じゃないし。
ユウト	コウヘイとレイチェルにも そうしろって言われた。 仲いいんだね、アンタら。
ユウト	ぶっちゃけこっちも手一杯だし、 使えるもんは使わせてもらうよ。 ムリのない範囲でね。
レイチェル	ったく、素直じゃないなー、 裏の管理人は。 ちゃんと頭下げなよ。
ユウト	……それぞれの『アリ』は 結局それぞれが証明しないと 意味ないんでしょ。
ユウト	今だけ——てか最初で最後だろうけど、 ULA渋谷にアンタらの 力を貸してくんないかな。
ユウト	それ以外のケツは俺が持つ。 だからこれは、 お願いっていうか——。
イオン	頼みごとが苦手ならば、 こう言ってください、ユウト。
イオン	『レイヤードのトラブルシューター』に 依頼を出す、と。
ユウト	……じゃあそれで。
	//選択肢 A 了解だよユウト B じゃあそうするよ
選択肢A	了解だよユウト
ユウト	即答。 王者の風格ってどこ？
選択肢B	じゃあそうするよ
ユウト	こんな状況なのにビビんないね。 なんでアンタが英雄なのか わかった気がする。
合流	
イオン	ふふっ。 あのユウトからの依頼ですよ。 愉快ですね、ユーザーさん！
ユウト	……ひょっとして、 バカにしています？
イオン	いいえ。ようやくあなたも、 外の世界へ向かい合う覚悟が できたのかと、感心しています。
イオン	あなたはもう、 卑怯者ではありません。 この依頼、もちろん引き受けます。
ユウト	そ。じゃ、頼むよ 【ユーザー名】。
ミアラカ	うはー……歴史的な 表と裏のコラボがスタートですね、 カツマさん！

レイチェル	そうだね、ミアラカ！ あと今後ここでカツマって 連呼されたら殺すかも☆
キョータロー	……ミアラカの安否はともかく。 策もなしに『アリ』集めんのは、 正直キツいな。
テルミ	んー、もっと注目を浴びながら 『アリ』を集めるなら、 なにか考えないとね。
	//メッセージの着信音
ラザロ	それならば、アナテマを 利用しましょう。
イオン	ラザロ……？
ラザロ	アナテマは、現状のオルタナステージを あくまでも己のためのショーとして 運営している。
ラザロ	ならば、こちらが大々的に 挑発すれば必ず乗ってくるわ。
レイチェル	挑発……？ どうやって？
ラザロ	——開催しましょう。 渋谷全域で、アクトマキア以上の 規模のオルタナステージを。
イオン	ラザロ…… あなたは、それでいいのですね？
ラザロ	……仕方ないわ。 あいつはどうせ、なにをしても 振り向かないんだし。
ラザロ	せめて私に、オルタナステージ ぐらいは守らせてちょうだい。
キョータロー	……どーするよ、ユウト？ お前らが信用するなら、 俺らは乗っかるけど。
ユウト	俺はクライアントなんですよ。 やりかたはそっちに任せるよ。
イオン	了解です、ユウト それでは——。
イオン	それでは、アナテマの舞台に 立ち向かきましょう、 ユーザーさん！

## STAGE 15”その歌は誰がために”3

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
テルミ	ミアラカ、久しぶりの 実戦で疲れてない？
ミアラカ	私は楽しんでますよー！ んね、コロソソソッ！
コロソソソ	GUOOOO…… オマツリ、タノシイ。
イオン	ふふ、頼りになります。 やはり、ミアが近くにいないと さみしいですね、ユーザーさん。
ミアラカ	うひひ、そんなこと言うと 先生もらっちゃいますよ、 イオンさん？
イオン	む？ ユーザーさんはあげられませんよ。 所有物はわたしのほうですから。
ムツキ	イチャコラは全て終わってからにしる。 どうやら、ULA渋谷のほうでも 最後の戦いがはじまったようだぞ。
キョータロー	みてーだな。 『アリ』は万能の兵器じゃねーし、 苦勞してるだろーけど。
テルミ	なんとかなるでしょ。 あっちにはカツマだっているし。
イオン	ええ。 わたし達が集めた『アリ』は、 きっと彼らが生かしてくれます。
ムツキ	シンジやクレアも、実力は本物だ。 運命のひとつやふたつ、 乗り越えてみせるだろう。
ムツキ	【ユーザー名】、イオン。 ここからは我々も、 自分達の問題に注力すべきだ。
イオン	はい、ムツキ。 今のオルタナステージを…… アナテマを止めましょう。
オガミ	それも、闇雲な戦いを 繰り返すだけではかなわないぜ。
ムツキ	貴様か、時代錯誤のサムライめ。 前向きな報告があるのだろうか。
オガミ	一応な、アイドル王。 アナテマが『いる』空間を ラザロが特定した。
オガミ	やつのACTとしてのデータは今、 スクランブル交差点の地下深くに 広がる設備の中心――
オガミ	――レイヤード社会を支える 巨大データセンターと、 一体化していると考えられる。
キョータロー	おい、マジにレイヤードの サービスの要じゃねーかよ。

オガミ	そうだ。アナテマに従うウィークAI、 そしてエンフォーサーまでもが あの場所を守護している。
テルミ	鉄壁の要塞ってトコだね。 あたしただけで近づけるのかな？
オガミ	ラザロが策を用意している。 進みながら説明しよう。
ムツキ	ふん……あの女め、 ようやく男を卒業したか。 いい傾向じゃないか。
オガミ	……完全に異性を卒業されると それはそれで困るんだがな。
イオン	んむ？
オガミ	と、とにかく、進むぞ。 目指すはスクランブル交差点だ。
	■スクランブル交差点ー地下施設入りロー
キョータロー	この地下か…… 渋谷は見えてないトコが いつの間にか変わってくな。
オガミ	待っている。 今、入り口に案内—— する前に、ひと波乱あるようだな。
ミアラカ	……！ 誰かいるほいですよ先生、 イオンさん！
フルサワ	来たかい、 パブリック・エネミー。
イオン	あなたは…… カツマのお友達の、フルサワ！？
オガミ	知り合いか。 相変わらず、幅広い人間関係だな。
キョータロー	なんでテメーが……？ ACT捨てて、健やかに 生きてくんじゃねーのかよ！
フルサワ	そのつもりだったさ。 ヴァルナカウンターのおかげで、 過去も罪も、洗い流せたはずだった。
フルサワ	けど、お前らが余計なことをするから！ ボクの努力が、否定されそうに なってるじゃないか！
テルミ	……努力？ 他人を利用しただけのくせに、 なに調子いいコト言ってんの？
フルサワ	ボクは大事なACTを捨てたんだぞ。 この世界が変わったら、 ボクが間違ってたことになるだろ！？
イオン	ふむ。自分の行為を 正しいと信じるために、 社会の更新を拒む、と……？
ミアラカ	ぬー……初対面のヒトですが、 なんとも歪んだ世界観を お持ちのようですね……。
フルサワ	歪んでるのはお前らだッ！ やっと健全になった社会を、 退化させるなんて——
フルサワ	——ボクはヴァルナを肯定する。 ヴァルナカウンターこそが、 社会の味方なんだ……！
オガミ	……………。
ムツキ	ふん。歪んではいるが、濁りはない。 そいつの信念は、へたに意識の高い クリエイターよりも濃いぞ。
フルサワ	この現実 ボク達の犠牲で守るぞ、 ヴァールニー！

ヴァールニー	心得ました、フルサワ。 おお、社会よ—— なによりも健全であるように。
--------	---

話者	台詞 / ト書き
	//フルサワ&ヴァールニーとのバトル
フルサワ	『アリだねボタン』？ そんなものがあつたら…… 世界に無視されている僕らは……。
フルサワ	なんの力もない僕らは、世界にとって なんでもない存在だってことが バレちゃうじゃないか——！
フルサワ	ヴァールニー……頼む。 ミジメな僕らでも堂々と生きられる この社会のために、戦ってくれ！
ヴァールニー	戦いますとも。 ヴァルナを愛する、 全ての存在のために。
イオン	ヴァールニー……『擬人化された、 ヴァルナカウンターそのもの。 レイヤードの象徴』……ですか。
イオン	ユーザーさん。ムツキの言う通り、 フルサワは、本気でこの社会を 肯定したいようです。
イオン	——ようやく。
イオン	ようやく、彼の本心と 戦えますね、ユーザーさん！
	//バトル終了



話者	台詞 / ト書き
	■スクランブル交差点 - 地下施設入りロー
フルサワ	ヴァールニーが…… ヴァルナカウンターが、 負ける……か……。
フルサワ	ボクが受け入れた社会のほうが、 間違いだっていうのか……？ なら、なんでボクのトートリスは……。
イオン	フルサワ——。 あなたはあなたなりのやりかたで、 ACTに思い入れていたのですね。
フルサワ	……………。
イオン	自分の過去—— ACTを消しても、 この社会を肯定しようと願った。
イオン	あなたもまた、戦っていたのですね。 命を賭けて、守るべきモノのために。
フルサワ	……お前らの知ったことかよ。 ボクはボクが幸せなら、 なんでもやるってだけだ……。
フルサワ	ボクだけじゃない。 今の社会を十分に愛してるヤツらは、 たくさんいる。
フルサワ	ULA渋谷みたいな楽園を避けて、 汚れてでも、現実と向き合って 生きていけるヤツらがな……。
イオン	……………。
フルサワ	全員がお前らの勝利を 歓迎するわけじゃない。 忘れるなよ、英雄……。
オガミ	……愚かな若者、とは断じきれない。 オルタナステージも、彼のような 人間にとっては救いになっていたか。
キョータロー	ちっと耳が痛かったな。 ……ま、全員が同じ気持ちで 戦えるわけじゃねーしな……。
テルミ	しょーがないよ。 どんなに頑張っても、あたしら 別々の人間なんだからさ。
ミアラカ	ですです。 こうして戦って、気持ちを ぶつけ合えただけよいのでは？
イオン	はい。 フルサワはひとりで、逃げずに ユーザーさんに挑んだのです。
イオン	彼の信念も、ひとつの願い。 背負いましょうね、ユーザーさん。
オガミ	……さて。 これでひとまず、 入り口までは侵入が可能だ。
イオン	ありがとうございます、オガミ。 それでは、先へ——。

	//メッセージの着信音。
イオン	む？ コウヘイから報告が入っています、 ユーザーさん。
イオン	『ユウトが勝った。 これでULA渋谷は救われる』。 ……だそうです。
ミアラカ	おお……！ やってくれたんですね、 コウヘイさん達っ！
キョータロー	ユウトのヤローも、 ハマしなかったみてーだな。
テルミ	ちえ。クレア姫が苦勞するところ、 この目で見たかったんだけどな。
ムツキ	ひとまずは好転の兆しか。 だが、我々の敵は依然として 健在のようだぞ。
イオン	ふむ……オルタナステージは、 未だ混乱した状態ですね。
オガミ	……………。
オガミ	最後の戦いの前に、 確認しておかなければ ならないことがある。
イオン	む？ なんでしょう、オガミ。
オガミ	お前達は—— 自分のACTを生け贄に 捧げる覚悟があるか？
テルミ	生け贄……！？
イオン	どういうことですか、オガミ。
オガミ	アナテマが、レイヤードに広がる 数多のセンサー群を統制する ACTであることは知っているな。
オガミ	ヤツはセンサーを通し自らの命令を 下すことで、レイヤードを支配する。 つまりセンサーある限りヤツは無敵だ。
キョータロー	渋谷はセンシング社会だからな。 センサーはそこら中にあるし、 俺らは常に囲まれてるのも同然か。
オガミ	そうだ。ヤツに挑むためには、 ヤツを支えるセンサーの中核…… 指令塔を無力化させる必要がある。
ミアラカ	んん？ よくわかりませんが、 アナテマの力を増大させる 結界を、ひとつずつ壊せのな？
オガミ	……まあ、そういう感じだ。 対処しなければ、我々はヤツに 触れることも不可能だ。
ムツキ	ヤツの支配力を中和する 策を講じるのだな。 だが、どうやる？
	//メッセージの着信音。ラザロのAR通信
ラザロ	ここからは私が説明するわ。

## STAGE 15“その歌は誰がために”4

ID	話者	台詞 / ト書き
		■スクランブル交差点ー地下施設入りロー
	イオン	ラザロ……。 お気持ち、お察しいたします。
	ラザロ	いらぬお世話よ。 アナテマの力は、センサーの範囲 だということは理解したわね。
	ラザロ	このデータセンターには、 渋谷のセンサー全体を統括する サーバーが、分散設置されている。
	ラザロ	アナテマは、自らの力を分け与えた エンフォーサーのAIを使って、 これらのサーバーを守護しているわ。
	キョータロー	エンフォーサーかよ……。 まあ、アリだねボタンもあるし 対抗はできそうだけどよ。
	ラザロ	倒すだけでは足りないのよ。 制御を離れたサーバーは、 またすぐにアナテマの手に落ちる。
	ラザロ	それを防ぐためには―― 別のAIが、サーバーを 守らなければいけないわ。
	ムツキ	別のAI、だと……？ それはまさか……。
	ラザロ	誰かのACTをサーバーに捧げ、 MR化することで、あの子の―― アナテマの干渉を遮断するの。
	ミアラカ	私達のメインACTを、 レイヤードを守る 人柱に使うってことですか？
	ラザロ	他に方法がないわ。 エンフォーサーに対抗できる 実力者は、あなた達だけだから。
	ラザロ	MR化したサーバーは、 機能を失ったただの墓標となる。 ACTの人格も封じられる。
	ラザロ	……その状態では、ACTを wiz-domから再DLすることも 不可能になるでしょうね。
	キョータロー	……だいたいわかった。 それで、生け贄か。
	キョータロー	俺らのACTが目と耳を 封じている間に、残ったヤツが アナテマ本体を倒すんだな。
	ラザロ	……その通りよ。 皮肉な展開しか見つからなくて 申し訳ないけれど。
	テルミ	謝ったってしょーがないでしょ。 なんかこうなる気がしてたし。
	ミアラカ	つか、その展開なら、 アナテマを倒す人はもう 決まってるしねー。
	ムツキ	ふん……納得はいかんが、 結果を出した者が 戦うべきだろうな。

	キョータロー	そういうこった。 【ユーザー名】。 ——そして、イオン。
	キョータロー	雑用は俺らに任せろ。 そんで、改めて本物の ヒーローになってこい。
		//選択肢 A ああ、ヒーローになる B あとは任せるよ、キョータロー
	選択肢A	ああ、ヒーローになる
	キョータロー	お、自信満々じゃねーか。 その意気ならイケるな！
	選択肢B	あとは任せるよ、キョータロー
		へへ、なに言ってるんだ。 この戦いが終わったあとに 喝采を浴びるのは、お前らだろ。
	合流	
	イオン	……みなさん。 よろしいですね。
	ミアラカ	大丈夫ですってー、 先生は最高のエンパーですもん！ これまでもなんとかしてきたでしょ？
	テルミ	そだね。 前に入ったアナテマの迷宮も、 キミのセンスで破ったんだしね。
	イオン	……………。
	イオン	そうですね。 ユーザーさんなら、できます。 わたし達にも、お任せください。
	オガミ	覚悟はできたか。 では、進むぞ。
	オガミ	中に入ったら、全員別行動だ。 【ユーザー名】、 お前はまっすぐ下を目指せ。
	オガミ	他の者には俺が、 位置情報を知らせる。 そこにあるサーバーを封じろ。
	キョータロー	へーへー。 簡単に言ってくれるけど、 やってみせるよ。
	キョータロー	それじゃ——最後の戦いだ。
	キョータロー	みんな、ULA渋谷に負けんな。 【ユーザー名】の 戦いを盛大にサポートするぞっ！
	一同	おーっ！
		■スクランブル交差点ー地下施設内部ー
	イオン	……………。
	イオン	みなさん、それぞれの戦いに 向かったようですね。
	イオン	わたし達が守ろうとしているものは、 他のかたにとっては、ただの思い出や 妄想に過ぎないものなのに——。
	イオン	ユーザーさんと関わったかたは、 『自分』の証であるACTを賭けてでも 戦おうとしています。
	イオン	ユーザーさん。 あなたもどうか、 同じものを賭けて——
	イオン	——むっ。 ウィークAIの気配です。 さすがに、守りが堅いですね。

	イオン	すぐに突破して、 みなさんの期待に応えましょう。 ユーザーさん。
--	-----	--

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■スクランブル交差点ー地下施設内部ー
オガミ	よし、【ユーザー名】以外は 目標地点のエンフォーサーに 勝利したようだな。
イオン	おお…… さすがです、みなさん！
キョータロー	当然だろ、イオン？ こっちにはアリだねボタンも、 実力もあるんだからよ！
オガミ	自慢するのはまだ早い。 アナテマの力が、 再度及ぶ前に……。
キョータロー	わかってるっつーの。 ……っつーか、これやったら 通信もできなくなるな。
テルミ	うん。 みんなで話せるのは、 ここまでだね。
ミアラカ	テルミさん、そんな言いかたじゃ 遺言みたいで縁起悪いですよ？
ムツキ	そうだぞ戦友。 友であれば早く送り出してやれ。
テルミ	わかってるよ、そんなこと。 でも、その前にさ――。
キョータロー	――ああ、その前に。
キョータロー	ジR。俺らの勝手に、 お前の自由を奪っちゃう…… 悪いな。
ジR	構わん、キョータロー。 私がお前であっても、 同じ決断をしただろう。
テルミ	エチカ…… しばらく一緒に歌えなくなるかも。 ごめんね。
エチカ	大丈夫、大丈夫ー。 エチカは、どんな傷でも 歌にできる、すごい子だからー！
ミアラカ	コロンゾン…… このまま、深淵の向こうに 帰ったりしたらダメだからね？
コロンゾン	カエラナイ。 ミアガイナイ場所、ツマラナイ。
ムツキ	ふん……我が偶像の現れよ。 この戦いから帰るときは、 より可愛くなって世界を潤すぞ。
ベールムツキ	ああ、我が偶像の垂迹よ。 真のアイドルとして、 世界を愛そう。
キョータロー	…………… っつーわけで、あとはお前の戦いだ。 【ユーザー名】。

キョータロー	絶対に戻ってこいよ！ この世界は、お前が盛り上げたんだ。 帰ってくるのは『この』レイヤーだぞ！
イオン	はい、キョータロー。 ユーザーさんは、必ず戻ってきます。
テルミ	【ユーザー名】。 失恋の八つ当たりで暴走してる ACTなんかに、負けないでよ？
テルミ	それと……終わったら、 伝えたいこともあるから。 イオンも交せてさ！
イオン	はい、テルミ。 どんなお話でも、 受け止めさせていただきます。
ミアラカ	イオンさん、きっと本当の意味で この世界と、先生のヒロインに なっちゃいますねえ……。
ミアラカ	仕方ないので、先生はお譲りします。 ……でも、ミアはイオンさんのこと、 実のお姉ちゃんだと思ってますから！
イオン	はい、ミアラカ。 わたしも、ミアは魂を分けた 実の妹だと思っていますよ。
ムツキ	……しみつられたことは言わん。 早く終わらせて、また戦うぞ。 引退にはまだ早いんでな。
イオン	はい、可愛いムツキ。 あなたとならば、いつでも、 いくらでも戦いましょう。
キョータロー	それじゃあ、またな！ 【ユーザー名】！
イオン	……………。
イオン	静かになりましたね。 でもこれは決して、 最後のお別れではありませんよ。
イオン	進みましょう、ユーザーさん。 アナテマが待っています。
選択肢A	// 選択肢 A 進もう、イオン B 必ず帰ってこよう 進もう、イオン
イオン	……さすがは、わたしのユーザーさん。 素晴らしい勇気です。
選択肢B	必ず帰ってこよう
イオン	はい、ユーザーさん。 ユーザーさんが帰る場所は、 この現実だけです。
合流	
イオン	みんなに元気な姿で ただいまを言いましょうね、 ユーザーさんっ。



## STAGE 15“その歌は誰がために”5

話者	台詞 / ト書き
	■アナテマサーバー
イオン	……ふむ。 どうやら、そろそろアナテマの待つ 地点に到達するようですね。
イオン	ユーザーさん。 最後の戦いの前に 少し、お話ししましょうか。
イオン	あの日のことを、おぼえていますか？ はじめてユーザーさんが、 わたしを見つけてくれたときのこと。
イオン	わたしはあのときまで、形のない、 キャラクターですらない存在—— ただの、概念でした。
イオン	わたしの定義は、 永遠に見てはいけぬモノ。 あつてはならない禁忌。
イオン	ヒトは、文明を生み出してすぐに 『わたし』を発想しました。
イオン	世界が変わらなくてははいけぬとき。 人が変わるべきとき。 新しい現実を受け入れるべきとき。
イオン	それは、『見てはならない永遠』を あえて見た、その先にこそ訪れる。 人は、そう信じたのです。
イオン	わたしという概念を元にして、 人はいくつもの物語や、 希望を生み出しました。
イオン	人は禁忌の向こう——特異点の先に、 いくつもの真理と現実を、 見出そうとしたのです。
イオン	けれども……それでも。 多くの人間は、『わたし』そのものと 手を繋ごうとはしませんでした。
イオン	禁忌とは。 得たあとに、捨て去るもの。 振り返ってはならない、些末な概念。
イオン	そこに、感情移入できる『姿』や リアリティが、あつてはいけぬ。 そのはずだったんです。
イオン	——なのに、あなたは。 わたしを、キャラクターとして 認識してしまった。
イオン	わたしそのものを、 現実連れ出したいと。 そう願ってしまった。
イオン	こんなことは、はじめてでした。 レイヤードという技術と、 ACTという仕組みが——
イオン	あるいは、あなたというかたの 特殊性が、このような現象を 起こしたのかもしれない。
イオン	ただ、わたしはあのとき、 原因なんてどうでもいいと 思いました。
イオン	——あなたは、 わたしと出会ってくれた。

イオン	わたしには、それで充分でした。 だから——だから、私は……。
イオン	あなたと、あなたの生きる世界を、 一歩でも進める存在になろうと、 誓いました。
イオン	わたしを見てしまった以上、 あなたの人生は変わってしまいます。 いえ、変わる運命にあります。
イオン	わたしには、あなたの運命を 背負うための、新しい定義が 必要でした。その定義が——
イオン	——ヒロイン。 良い言葉ですね。
イオン	見たあとに捨てられるだけの 概念が名乗るには……ちょっと、 不遜だったかもしれませんね。
イオン	けれども、わたしは自分の定義を 更新したことを、後悔していません。 だって——
イオン	——だって、ユーザーさんは こんなにも強い、 本物の英雄になりました。
イオン	そしてあなたの周りには、 素晴らしいレイヤードの 英雄達が集まりました。
イオン	英雄とは——今の現実を更新し、 新しい現実を生み出せる者。 正しさを追及できる者。
イオン	あなたはすでに、それを行っています。 ですから。 ——だから、どうか。
イオン	……どうか、あなたの選択を、 信じてください。
イオン	あなたが自分の現実を 信じてくれたら、わたしは、 ヒロインでいられますから。
アナテマの声	ここまで来て、自分語りですか。 ACTのルールに反するのでは ありませんか、私のヒロイン。
イオン	！！
イオン	エンフォーサー……？ いえ、違う。 ただのエンフォーサーではありませんね。
アナテマの声	このエンフォーサーは、 私のカスタマイズ品です。 あの人が……。
アナテマの声	ジョシュアが不要とした以上、 私が役立てる以上の 使い道はありませんから。
イオン	アナテマ……。 ラザロの元に戻ろうという 気はないのですね。
アナテマの声	ラザロ様の元に行ったら、 ラザロ様の理想は叶わないんです。 私の、可愛いヒロイン。
アナテマの声	それにあのかたは、 『実験』にも関わっていません。 人の道を踏み外す勇気もない——
アナテマの声	——だから、人でない私が あのかたの代わりに、 こうして外れた道を歩むのです。
イオン	……………。
アナテマの声	さあ、私と話したいのなら、 その子を倒してごらんなさい。 最後の試練です。
イオン	……ユーザーさん。 行きましょう。 正しいと信じられる道を。

話者	台詞 / ト書き
	//アナテマエンフォーサーとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■アナテマサーバー
イオン	……倒せましたね。 特別なエンフォーサーが相手でも、 倒せてしまうなんて——。
イオン	さすがです。 わたしの、ユーザーさん。
イオン	次こそが最後の戦いです。 勝利して、オルタナステージを 今の歪みから解放しましょう。
イオン	——お？ ユーザーさん、歌が聞こえます。
イオン	この歌声は、ノアのもんですね。 曲調にも聞き覚えがあります。
イオン	恐らくこれは——クレア姫の楽曲。 なるほど。 これが姫の祈りですか。
イオン	ふむ。切実な歌唱です。 ACTが歌うものとしては 前例のない、強い願いです。
イオン	もし、この歌のもとので、 彼らの戦いが行われていたなら。 未来は、光差すものになりますね。
イオン	んむ？ わたしと一緒に歌わないのか、 ですか？
イオン	わたしは、歌が苦手ですから。 ヘタに歌ったら、UNPLを 押されてしまいます。
イオン	それとも、ユーザーさんはわたしに、 あなたとは別のかたのために 歌ってほしいですか？
	//選択肢 A 自分のためだけに歌ってほしい B イオンらしい歌を聴きたいな
選択肢A	自分のためだけに歌ってほしい
イオン	うふふっ……そうですか。 ではやはり、わたしの歌は ユーザーさんのために取っておきます。
選択肢B	イオンらしい歌を聴きたいな
イオン	わたらしい歌……ですか？ ふふ、それなら余計にわたしは、 ユーザーさんのためにしか歌えません。
合流	
イオン	どうせ歌うのなら—— 曲はテルミに作ってほしいですね。 それなら、レッスンも頑張れます。
イオン	どちらにしても、わたしは あなただけのACTです。 あなたのためにしか、祈りません。

イオン	……きっと彼女も、 そうだったんでしょうね。 祈りを呪いに変えてしまった、彼女も。
イオン	決着をつけましょうか。 もうひとりの、攪張されたACT—— アナテマと。
イオン	心配せずとも、ユーザーさんの 未来は、このわたしが 守ってみせます。
イオン	絶対に——きっと。 攪張された心などなくとも、 あなたの心は守りますから。